

# 少子対策・子育て支援に関する県民意識調査結果 概要

## I 調査目的・内容

来年度の「ひょうご子ども・子育て未来プラン」の改定に向け、現在の結婚や子育てを取り巻く状況、県民ニーズ、意見、課題などを把握し、改定時の基礎資料とする。

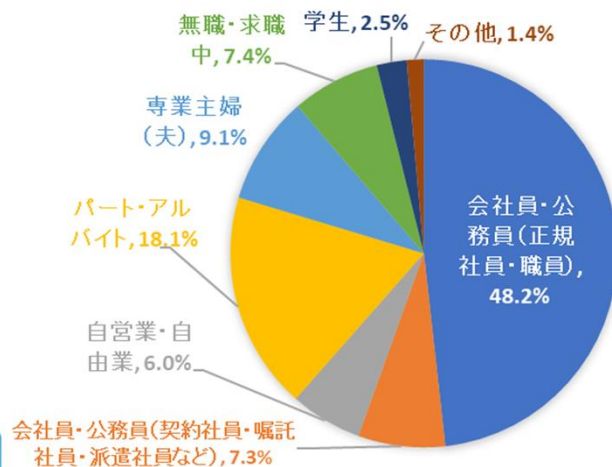
調査は、結婚・出産・子育て・働き方にいたるまで多岐にわたるものとした。

## II 調査概要

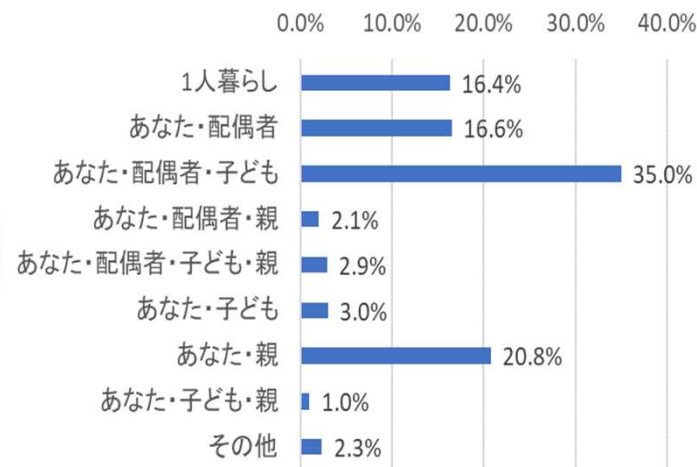
区分	内容
サンプル数	4,000サンプル
調査地域	兵庫県全域（10圏域の県民局ごとの人口構成比に応じてサンプルを収集）
調査対象	15～79歳の県民（うち15～49歳は80.1%）
調査期間	令和5年12月6日～15日
調査方法	インターネットによるアンケート調査

## (回答者の属性)

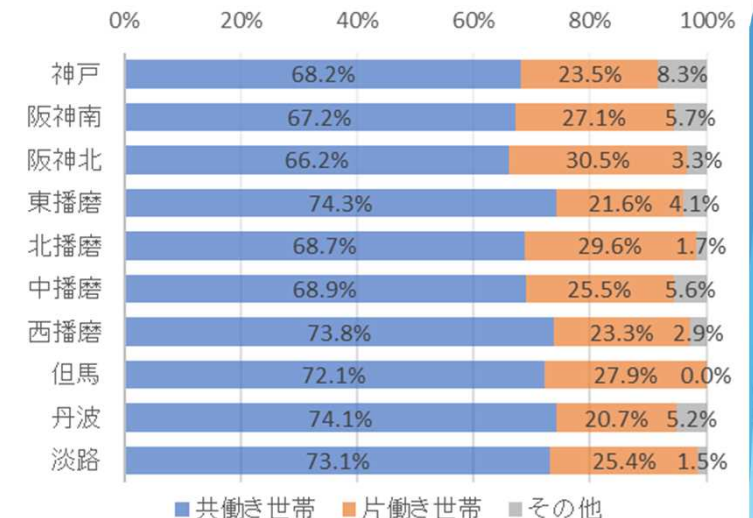
### ● 職業(n=4,000)



### ● 家族構成(n=4,000)



### ● 夫婦の就業状況(n=2,319)



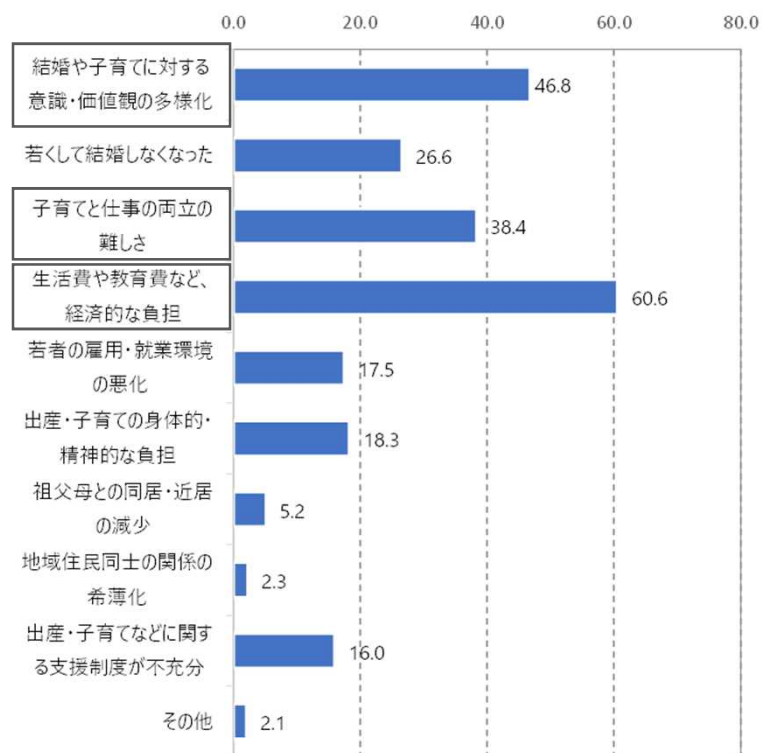
## 主な調査結果

### (1) 少子化の進展、子ども・子育てを取り巻く状況について

#### ● 少子化の要因

- ・最も多いのは「生活費や教育費など経済的な負担」(60.6%)で全体の約2/3の人が回答。
- ・以下「結婚や子育てに対する意識・価値観の多様化」(46.8%)、子育てと仕事の両立の難しさ(38.4%)と続く。

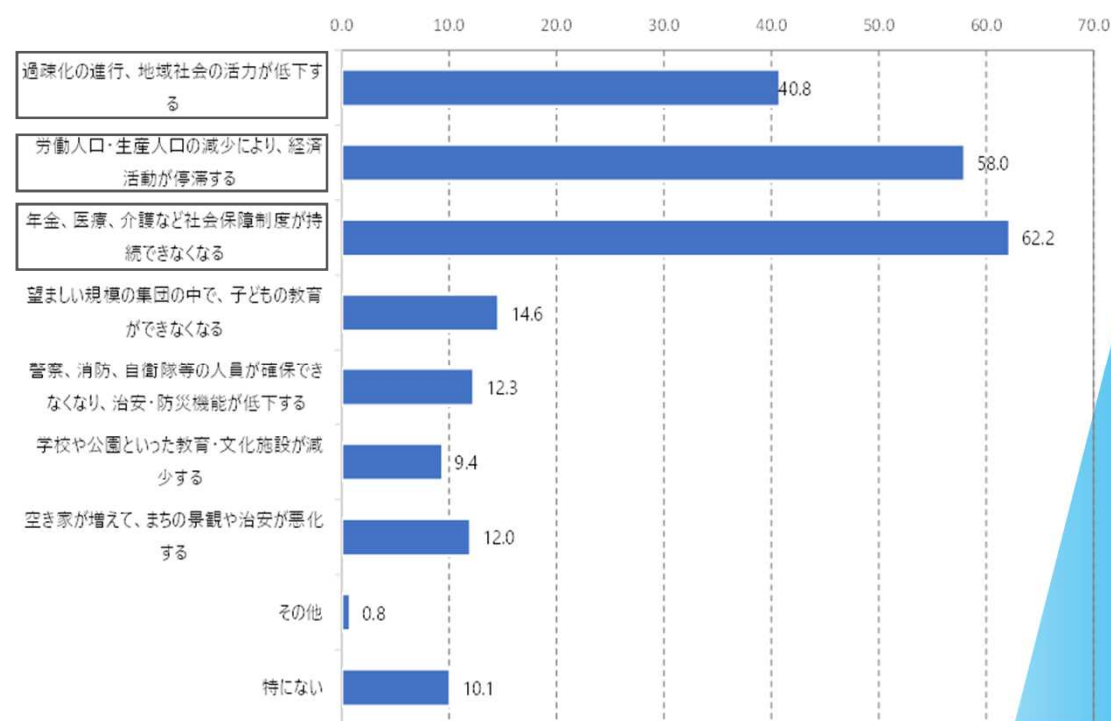
■少子化の要因（複数回答：n=4,000） (%)



#### ● 少子化が与える影響

- ・「年金、医療、介護など社会保障制度が持続できなくなる」(62.2%)や「労働人口・生産人口の減少により、経済活動が停滞する」(58.0%)など、経済や福祉面での影響を懸念する声が多くなっている。

■少子化が与える影響（複数回答：n=4,000） (%)



## 主な調査結果

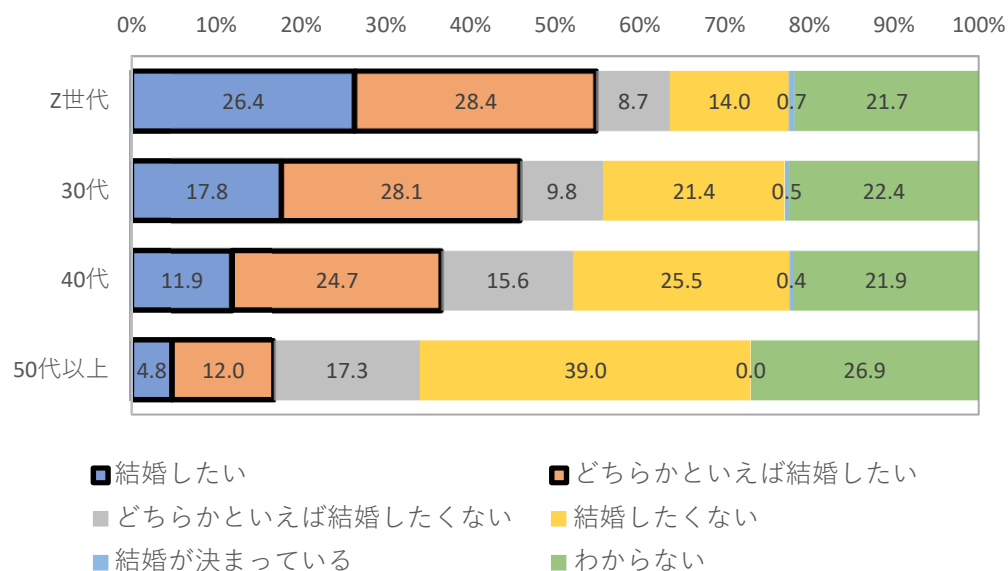
### (2) 結婚について — ①結婚願望

※本アンケートでは15歳以上29歳以下をZ世代と取り扱う

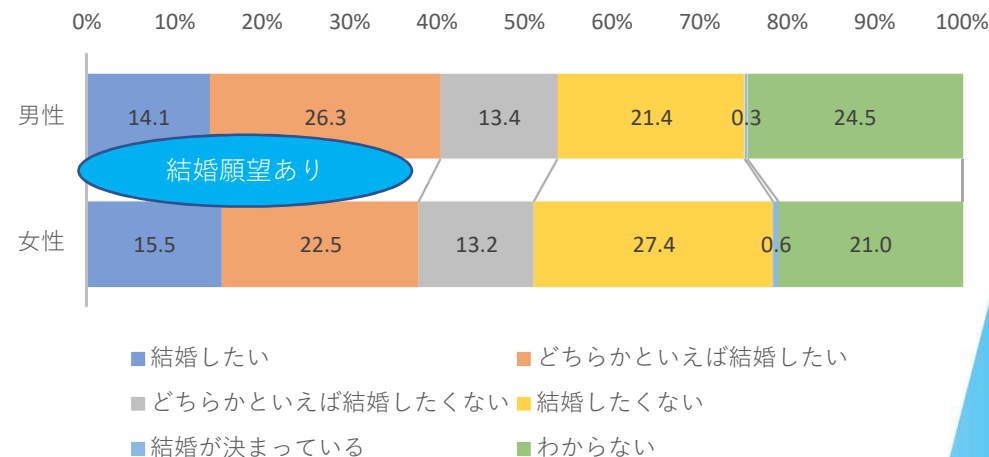
#### ● 結婚願望

- 結婚願望がある（「結婚したい」または「どちらかといえば結婚したい」と回答）のは、Z世代で54.8%、30代で45.9%と5割前後となっている。また、年代が上がるにつれて、結婚願望がある人の割合は低下する。
- 性別では、女性の方が男性より、結婚願望が低い。

■結婚願望（年代別） (%)



■結婚願望（性別） (%)



## 主な調査結果

### (2) 結婚について – ②未婚理由

#### ● 未婚・独身でいる理由

- 男女ともに「いい相手が見つからない」が最も多くなっており、次いで男性は「結婚資金や結婚後に経済的な不安がある」、女性は「未婚または独身の方が気楽」が多くなっている。
- Z世代では「仕事と家庭の両立に不安がある」が比較的高く、30代～40代では「いい相手が見つからない」が他の年代に比べて多い傾向になっている。

■割合（性別、年代別） (%)

※上位3項目を色づけ

	全体 (人)	まだ結婚するには若いと思う	仕事に専念したい	趣味に集中したい	未婚または独身の方が気楽	仕事と家庭の両立に不安がある	仕事でのキャリアアップに差し支える	結婚する必要性を感じない	いい相手が見つからない	異性と上手く付き合えない	結婚資金や結婚後に経済的な不安がある	結婚しても子どもを育てる状況ではない (経済的、身体的、精神的)	その他
男性	799	4.0	5.3	14.0	26.9	8.5	2.8	20.8	36.8	20.3	28.8	19.5	3.0
女性	873	5.7	6.0	10.0	35.9	7.2	2.5	29.7	37.9	15.2	15.8	11.9	
Z世代	299	22.4	9.0	15.1	18.7	11.7	5.0	15.4	28.1	12.0	20.4	16.1	5.4
30代	388	1.8	6.7	17.5	33.2	7.7	3.1	20.4	39.9	23.5	23.2	18.0	3.6
40代	745	1.1	4.8	9.9	32.6	7.7	2.1	26.2	31.1	19.9	24.0	15.4	4.6
50代以上	249	0.0	2.0	5.6	41.0	4.0	0.4	43.8	32.9	8.8	15.3	11.6	9.6

## 主な調査結果

### (2) 結婚について – ③行政が行うべき取組

#### ● 結婚できる環境整備について行政が行うべき取り組み

- 「安定した雇用環境の整備」と「賃金を上げるなど、安定して生活ができるための支援」が約3割と、経済的な支援を求める声が多くなっている。
- 女性は「夫婦がともに働き続けられるような職場環境の整備支援」が9.9%となっており、男性（5.8%）と比べて4.1ポイント高くなっている。
- 20代では「結婚にかかる費用への経済的支援」が10.1%となっており、比較的多くなっている。
- 結婚したい意思がある人は「結婚にかかる費用への経済的支援」（7.4%）や「出会いの場の提供」（10.4%）などが結婚したい意思がない人に比べて比較的多くなっている。

■性別、年代別、結婚願望別  
(%)

		回答者数 (n)	安定した雇用環境の整備	賃金を上げるなど、安定して生活ができるための支援	結婚にかかる費用への経済的支援	住宅確保に対する経済的支援	出会いの場の提供	交際や結婚に対する相談支援	結婚したほうが有利となる税制の整備	夫婦がともに働き続けられるような職場環境の整備支援	結婚しても、昇進・昇格等のキャリア形成ができる職場環境の整備支援	結婚を推進する啓発活動・機運の醸成	その他	取り組み必要はない
			性別	男性	199	32.0	27.5	5.4	2.3	6.5	1.7	7.2	5.8	0.9
	女性	199	28.1	29.8	3.7	2.4	5.0	1.6	6.0	9.9	3.5	0.7	0.7	8.8
年代別	10代	4	22.0	24.4	4.9	2.4	4.9	9.8	4.9	9.8	0.0	0.0	2.4	14.6
	20代	356	29.5	27.0	10.1	2.0	5.1	2.0	3.9	3.9	2.8	0.0	0.3	13.5
	30代	936	26.6	30.9	4.5	3.0	5.2	1.9	6.7	6.9	3.3	0.7	0.4	9.7
	40代	1867	31.8	29.2	4.3	1.9	5.5	1.4	7.6	7.1	1.6	1.0	1.0	7.6
	50代以上	800	30.4	25.8	2.8	2.6	7.4	1.1	5.5	12.4	2.4	1.5	0.9	7.4
	Z世代	397	28.7	26.7	9.6	2.0	5.0	2.8	4.0	4.5	2.5	0.0	0.5	13.6
結婚願望別	結婚したい意思がある	664	27.9	28.9	7.4	1.4	10.4	2.7	5.6	5.6	1.5	0.9	0.6	7.2
	結婚したい意思がない	635	27.2	27.2	3.8	1.6	5.5	1.7	5.2	5.4	2.2	1.1	0.8	18.3
	わからない	382	29.3	24.9	2.9	1.0	3.4	2.4	5.5	5.2	2.4	0.8	0.8	21.5

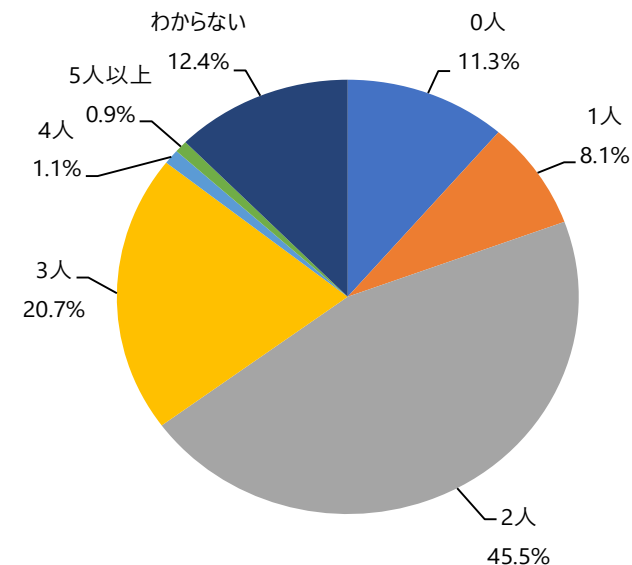
## 主な調査結果

### (3) 妊娠・出産について ①理想とする子どもの数

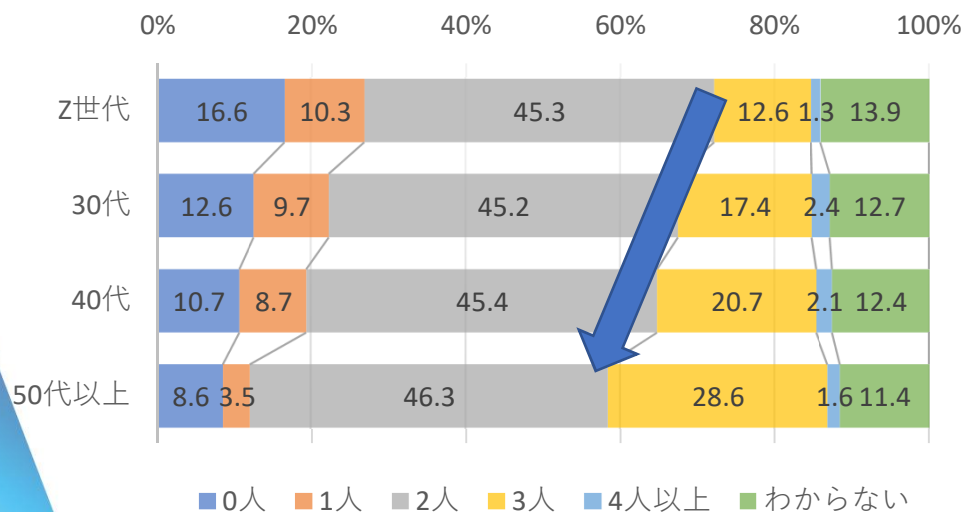
#### ● 理想とする子どもの数

- 全ての年代で「2人」が最も割合が高く、20～50代以上では、年代が上がるとともに「3人」の割合が高くなっている。
- 世帯年収が上がるほど“3人以上”（3人+4人+5人以上）の割合が高くなる傾向にあり、1,000万円以上では3割を超えている。

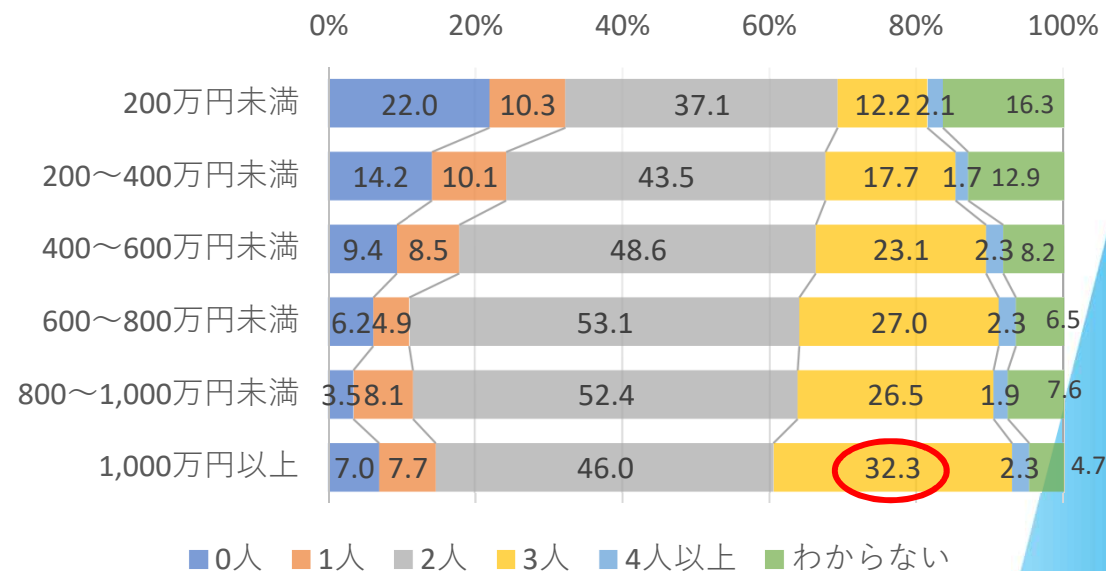
■理想とする子どもの数  
(全体) (n=4,000)



■理想とする子どもの数 (年代別)



■理想とする子どもの数 (年収別)



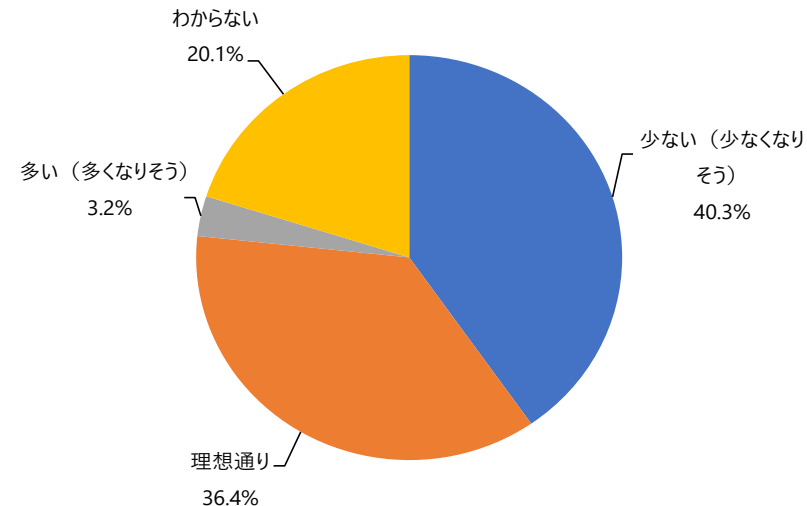
## 主な調査結果

### (3) 妊娠・出産について ②理想と実際の子どもの数の差

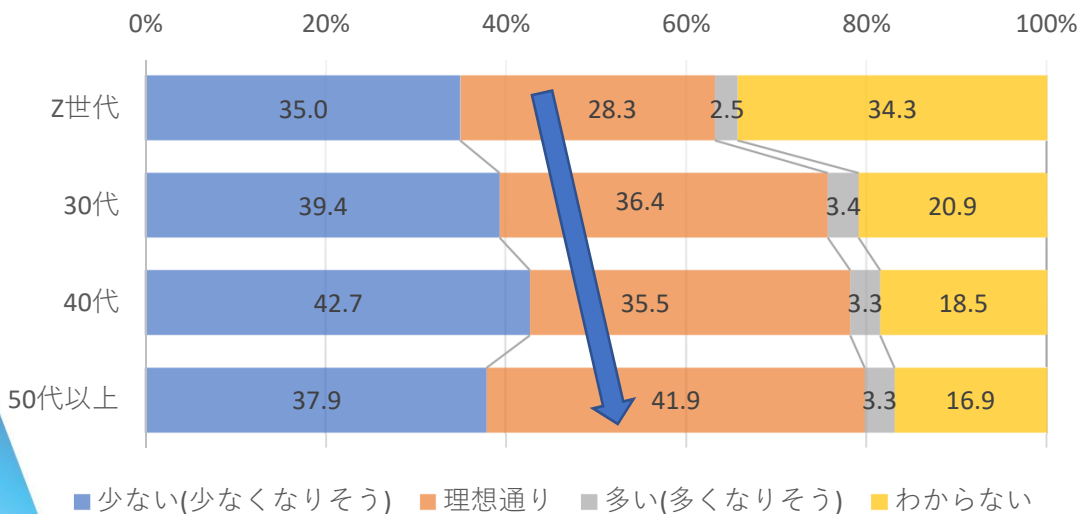
#### ● 理想と実際の子どもの数の差

- ・年代が上がるにつれて「理想通り」が増加傾向にある。
- ・子どもが1人いる人で「少ない（少なくなりそう）」が63.1%と最も高くなっており、現状に満足していないことがうかがえる。
- ・また、子どもが“2人以上”いる人は「理想通り」が半数以上を占めて最も高く、おおむね満足していると推測される。

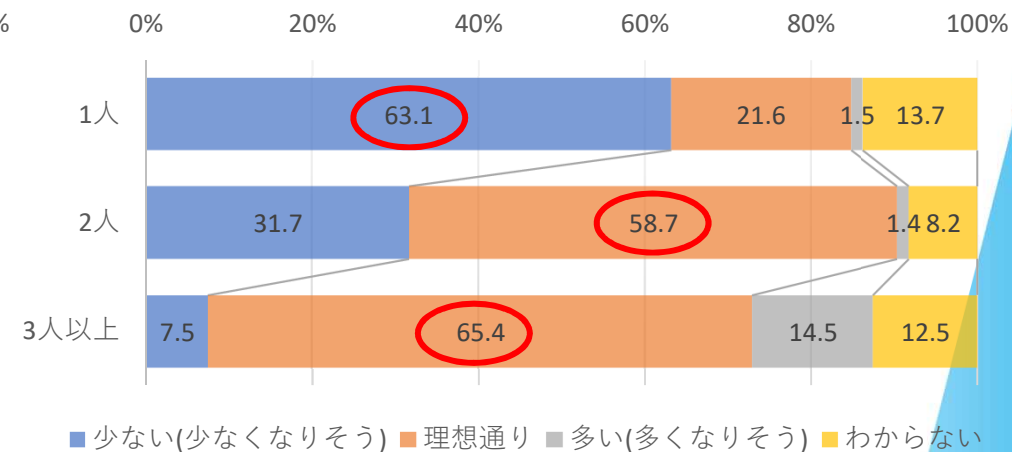
■理想と実際の子どもの数の差（全体）（n=3,180）



■理想と実際の子どもの数の差（年代別）



■理想と実際の子どもの数の差（現在育てている子どもの人数別）



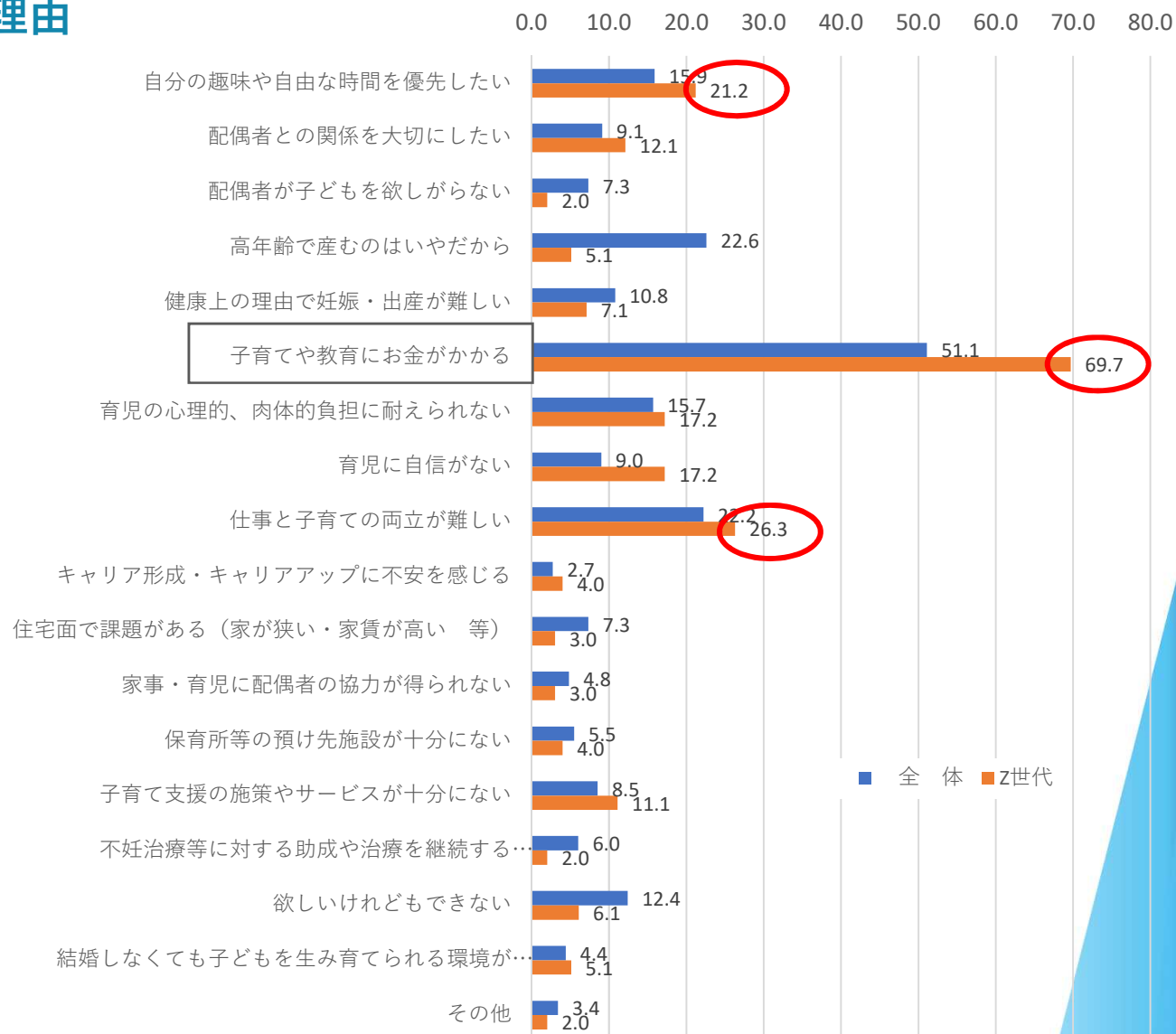
## 主な調査結果

### (3) 妊娠・出産について ③理想よりも子どもの数が少ない理由

#### ● 理想より子どもの数が少ない理由

- 理想よりも実際の子どもの数が少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかる」が51.1%と最も割合が高く、経済的な負担が理想の子どもの数とのギャップの大きな要因のひとつとなっている。
- Z世代においては、特に「「子育てや教育にお金がかかる」が約7割(69.7%)に達しており、「仕事と子育ての両立が難しい」(50.0%)、「自分の趣味や自由な時間を優先したい」(21.2%)が全体に比べて高い。

■理想よりも子どもの数が少ない理由（全体、Z世代）（複数回答：n=1,280）（%）





## 主な調査結果

### (3) 妊娠・出産について ④不妊

#### ● 不妊についての不安や悩み

・ 不妊についての不安や悩みを「現在、心配している」、「過去に心配したことがある」割合が併せて、約4割 (37.4%) となっている。

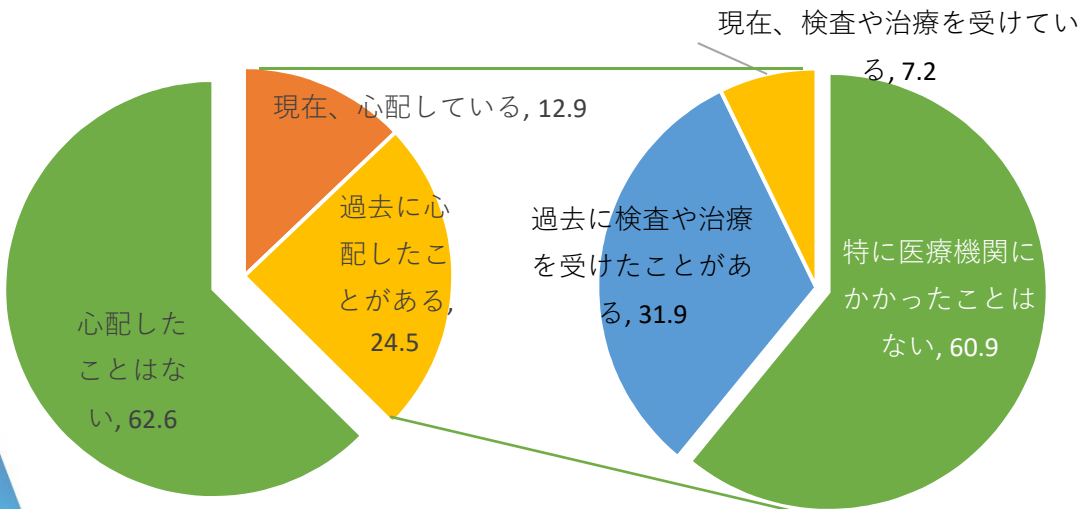
#### ● 不妊治療の経験

・ 不妊についての不安や悩みを「現在、心配している」、「過去に心配したことがある」方のうち、不妊治療の経験があるのは約4割 (38.6%)

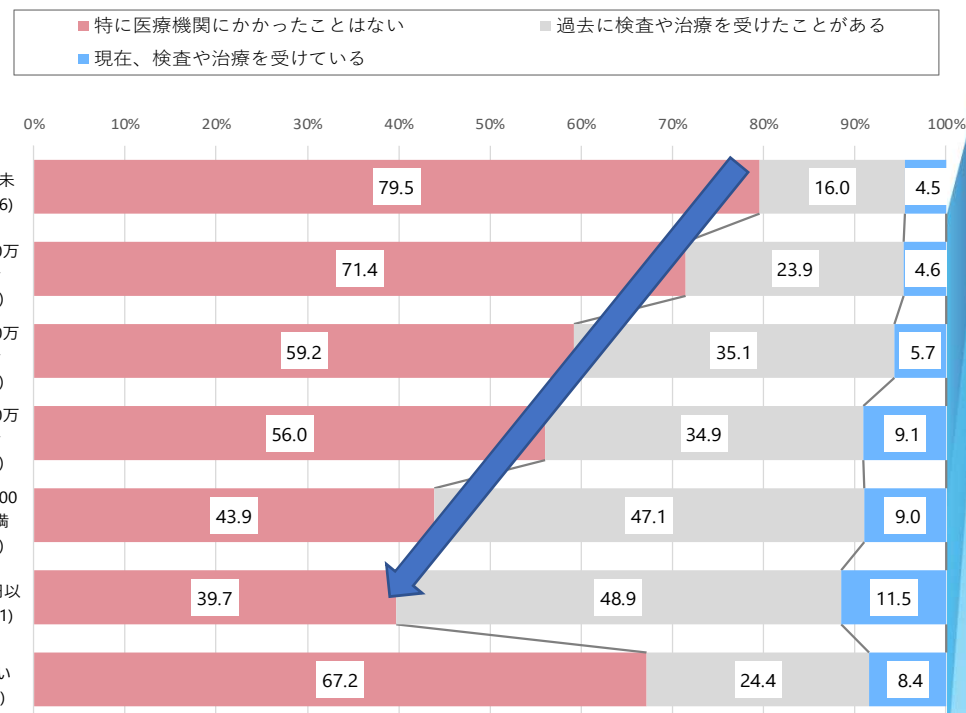
・ 世帯年収が多くなるほど“治療を受けた”の割合が高い。

■不妊についての不安や悩み (全体)  
(n=4,000)

■不妊治療の経験 (全体)  
(n=1,496)



■不妊治療の経験 (世帯年収別)



## 主な調査結果

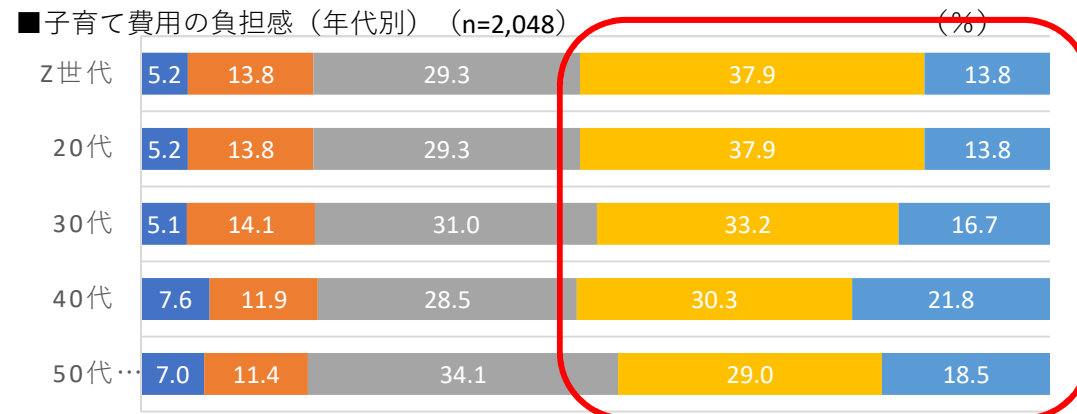
### (4) 子育てについて – 子育てにかかる費用の負担感

#### ● 子育てにかかる費用の負担感

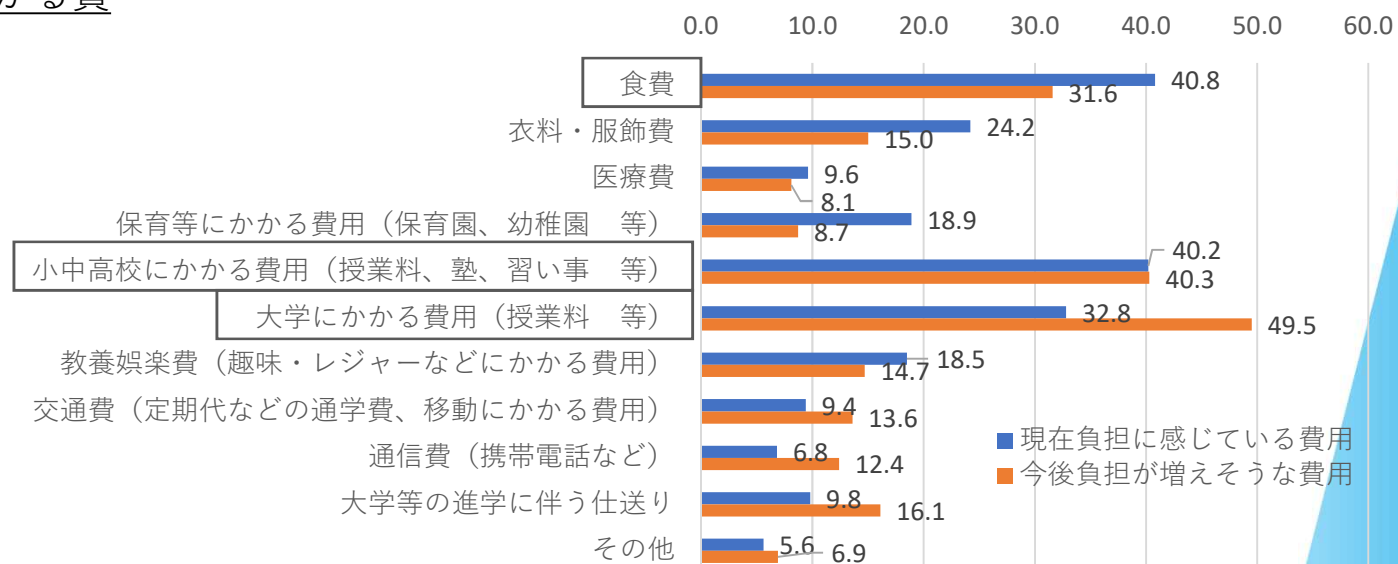
・ いずれの年代においても“費用面で負担を感じている人”（非常に重く感じる＋やや重く感じる）は、5割程度に達している。

・ 現在、負担に感じる費用として最も割合が高いのは「食費」が40.8%で、ほぼ同じ割合で「小中高校にかかる費用」（40.2%）となっている。

・ 今後、負担に感じる費用として最も割合が高いのは「大学にかかる費用」が49.5%で、半分近い。



■ 思ったよりも、重く感じない  
■ 思ったよりも、あまり重く感じない  
■ 思っていた程度  
■ 思ったよりも、やや重く感じる  
■ 思ったよりも、非常に重く感じる



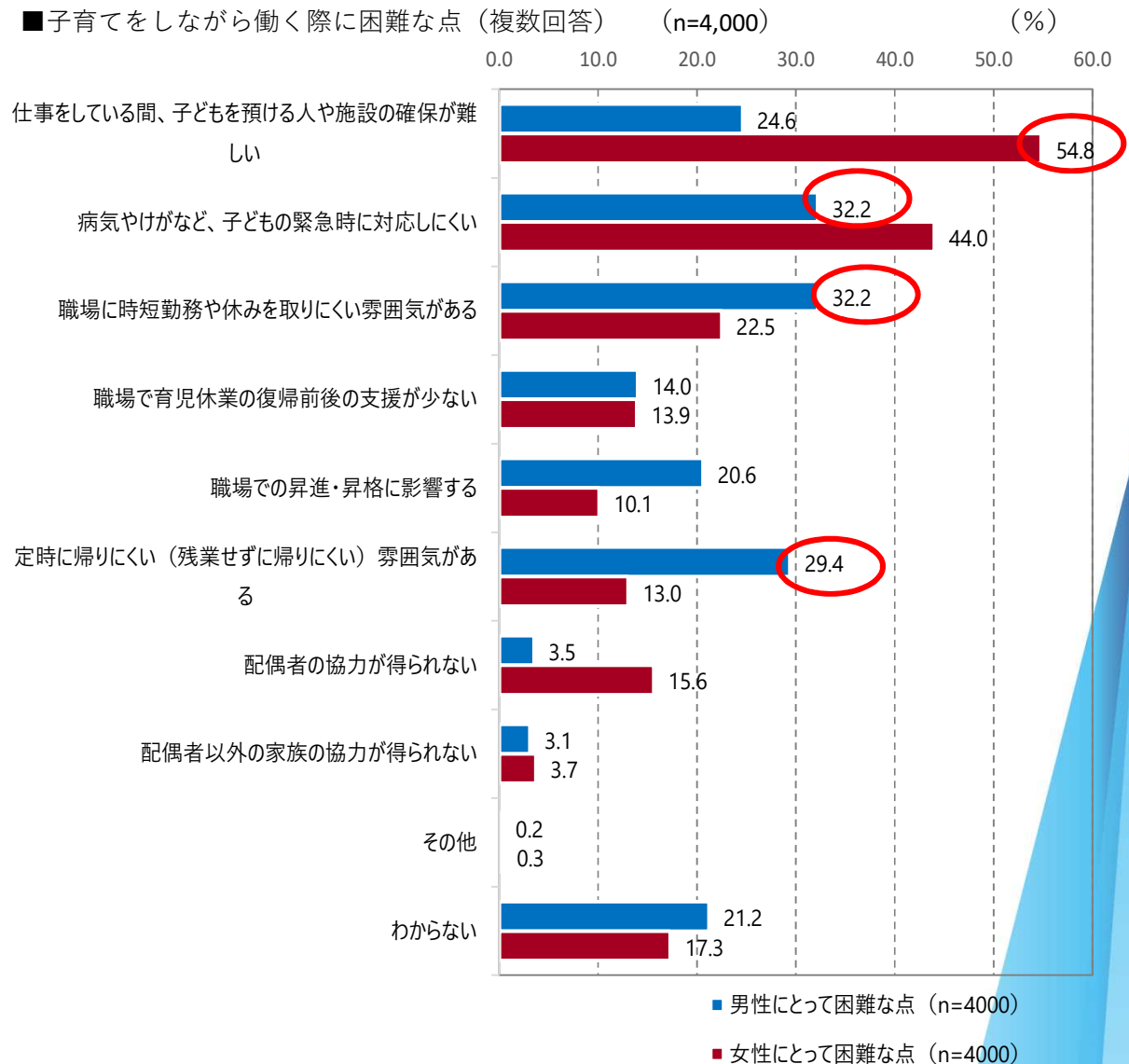
## 主な調査結果

### (5) 子育てと仕事の両立支援について

#### －①子育てをしながら働く際に困難な点

##### ● 子育てをしながら働く際に困難な点

- 女性には、「仕事をしている間、子どもを預ける人や施設の確保が難しい」や「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」といった“子どもの預け先”をあげる人が多くなっている。
- 男性は、女性と同様に「病気やけがなど、子どもの緊急時に対応しにくい」も割合が高いが、「職場に時短勤務や休みを取りにくい雰囲気がある」や「定時に帰りにくい（残業せずに帰りにくい）雰囲気がある」など職場の雰囲気に関する項目が多くなっており、性別による意識の差がみられる。



## 主な調査結果

### (5) 子育てと仕事の両立支援について

#### －②子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度

##### ● 子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度

- ・ 全体的に「短時間勤務制度やフレックスタイム制」が41.2%と最も割合が高くなっている。
- ・ 年代が低いほど、「出産時の父親への休暇付与」が高く、年代が高いほど「在宅勤務（テレワーク）制度」を必要と感じる割合が高い。

ベビーファミリー層：未子が就学前  
ヤングファミリー層：未子が小学生  
ファミリー層：未子が中学生以上

■子育てと仕事の両立のために必要だと思う制度（性別、年代別、ライフステージ別） (%)

	延長2年間の更なる最	大い休業期間（最	育児の期間（最	業期間の延長（最	全ても親へ育児休業	るまでも育児休業	子、が2歳にな	制フ短レク勤務イム	度残業をさせない制	休出産時の父親への	の事業所内保育施設	ワ在宅勤務（テレ	のて再雇用した従業員	等育児一部支給	制務本人が希望する異動	その他
全体	26.9	26.8	41.2	24.4	19.9	12.8	26.6	16.9	18.9	11.2	1.5					
年代別	Z世代	29.5	26.2	34.0	22.4	8.8	21.2	12.6	15.4	10.3	0.8					
	30代	25.3	26.6	40.9	25.3	10.1	24.9	15.0	21.2	12.0	1.3					
	40代	25.1	26.2	40.9	24.7	13.2	26.6	16.6	18.6	10.6	1.9					
	50代以上	31.8	28.6	46.0	23.6	16.8	31.3	22.0	18.6	12.0	0.9					
ライフステージ別	独身者	26.0	24.4	37.5	23.5	11.6	28.6	15.8	16.6	13.1	2.0					
	夫婦のみ	32.3	22.9	38.1	20.5	13.8	24.7	16.6	18.9	11.8	1.8					
	ベビーファミリー層	26.2	34.0	41.8	26.9	12.4	20.2	14.3	23.4	7.5	1.1					
	ヤングファミリー層	21.7	25.8	45.5	25.6	13.3	26.5	17.3	20.6	11.2	1.1					
ファミリー層	28.6	28.2	46.0	25.7	18.7	14.0	28.8	20.2	18.7	10.3	0.8					

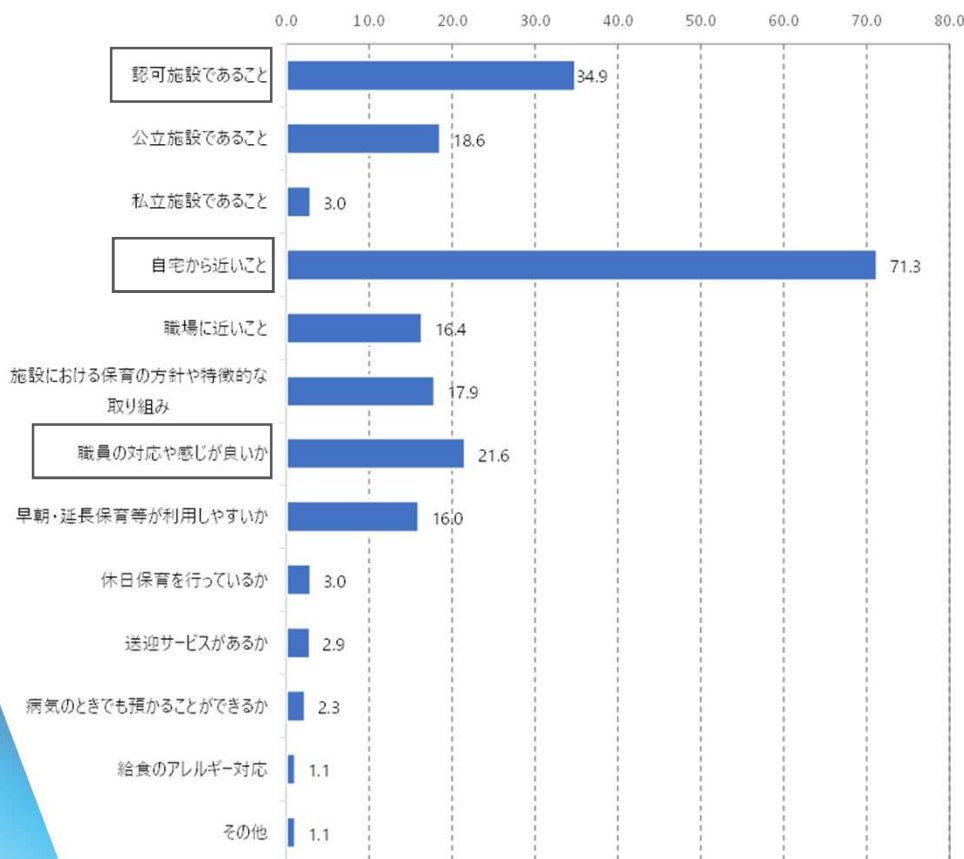
## 主な調査結果

### (6) 保育施設等の利用について – ①保育所、幼稚園等

#### ● 保育所等を選ぶときに重視した点

「自宅から近いこと」が71.3%と最も割合が高くなっている。

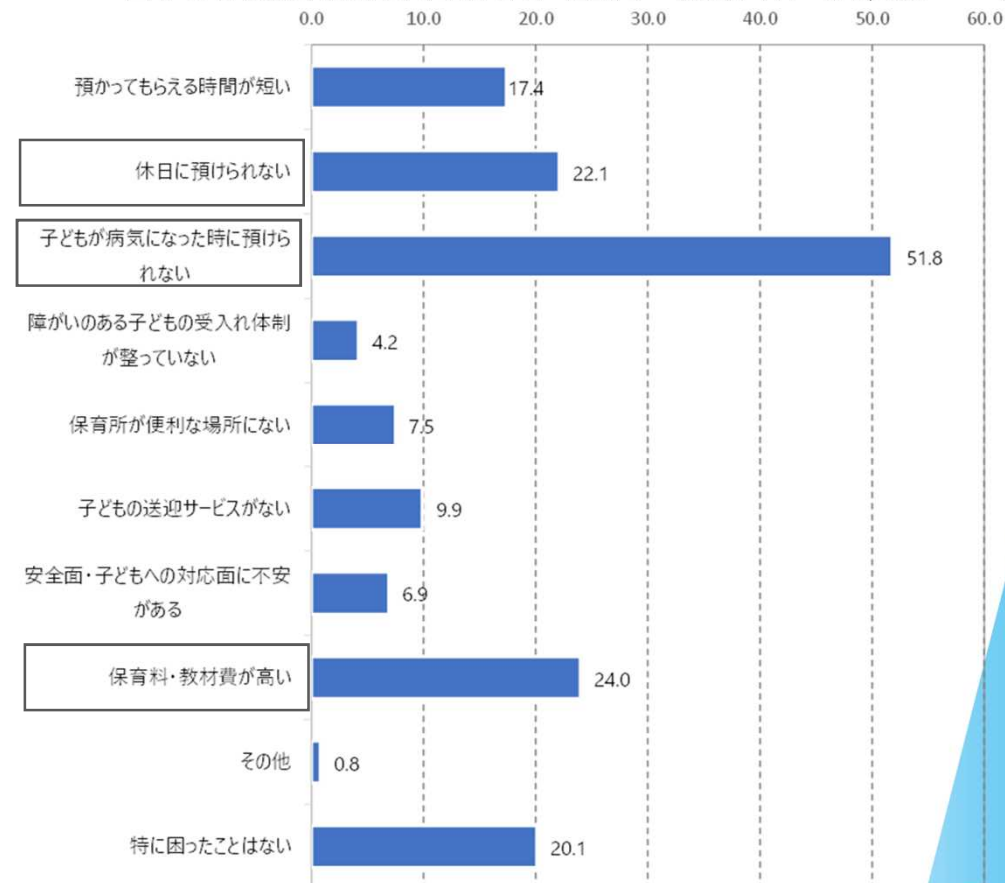
■子どもの保育所等を選ぶときに重視した点（全体）（複数回答:n=1,081）（%）



#### ● 子どもを預けた際に困ったこと

「子どもが病気になった時に預けられない」が51.8%と最も割合が高く、次いで「保育料・教材費が高い」（24.0%）、「休日に預けられない」（22.1%）と続く。

■子どもを預けた際に困ったこと（全体）（複数回答：n=1,081）（%）



## 主な調査結果

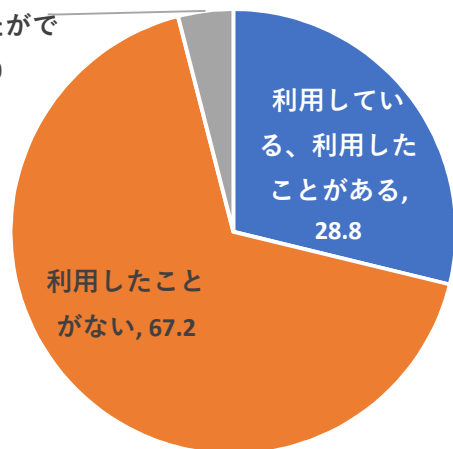
### (6) 保育施設等の利用について – ②放課後児童クラブ

#### ● 利用状況

“利用したことがある”（「現在利用している」＋「以前利用したことがある」）が28.8%と3割程度に上るが、“利用出来なかった”（「現在、利用したいが出来ていない」、「以前、利用したかったが出来なかった」）が4%存在している。

■放課後児童クラブの利用状況（全体）（n=2,048）（%）

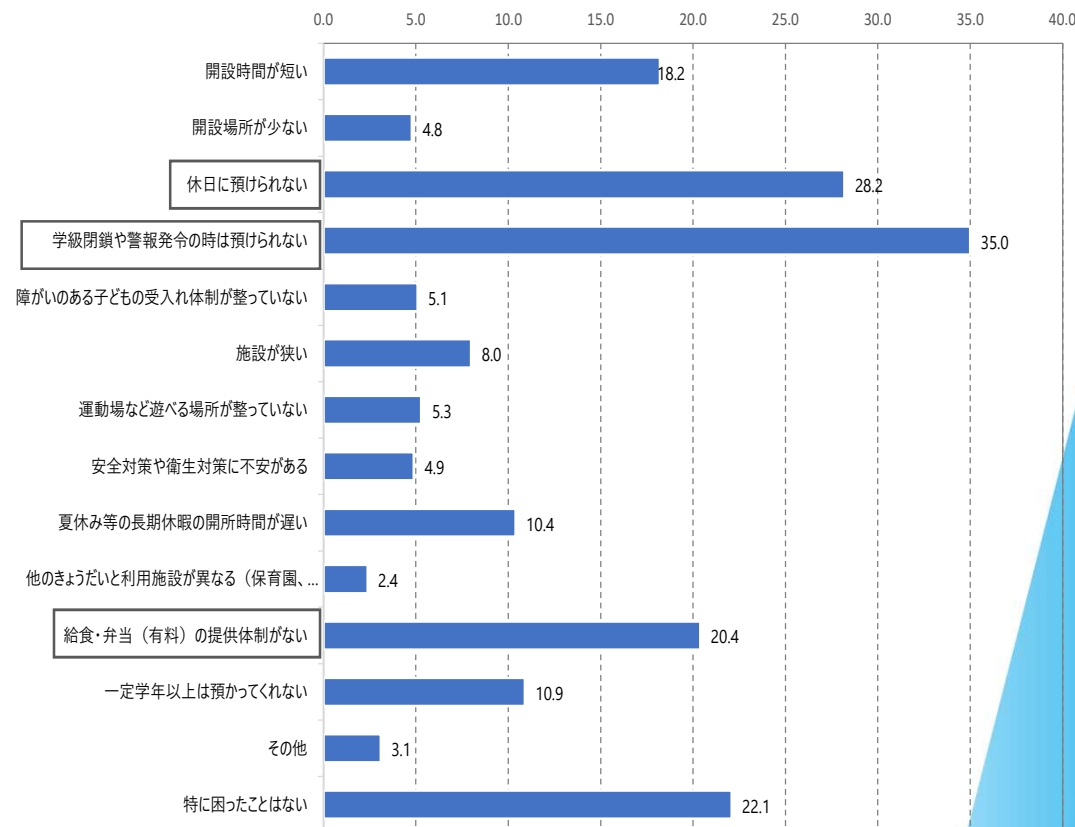
利用できていない、以前、利用したかったがで  
きなかった、4.0



#### ● 子どもを預けた際に困ったこと

「学級閉鎖や警報発令の時は預けられない」が35.0%と最も割合が高く、次いで「休日に預けられない」（28.2%）、「給食・弁当（有料）の提供体制がない」（20.4%）と続く。

■子どもを預けた際に困ったこと（全体）（複数回答：n=589）（%）



## 主な調査結果

### (7) 行政への意見・要望について

#### ● 充実して欲しい支援策

- ・ 充実してほしい支援策は「授業料軽減・免除、給付型奨学金など教育費用の軽減・助成」が28.7%と最も多くなっている。
- ・ 次いで「保育料の軽減・助成」(19.2%)、以下「保育所・認定こども園等の増設・充実」(18.6%)、「経済の活性化・雇用の充実」(18.1%)とほぼ同じ割合で続いている。

